

# 歴史のなかのセクシュアリティ

## 同性愛／性的指向の比較文化史

セクシュアリティは重要な人権の1つである。近年の国際社会では、ジェンダー主流化の流れに即して性的指向にもとづく差別を禁止し、セクシュアル・アイデンティティを保障する動きが強まっている。同性婚や同性間パートナーシップを合法化する国も増えた。しかしながら、セクシュアリティの権利を抑圧する差別や暴力が消えたわけではない。今回のシンポジウムでは、セクシュアリティに関する多様な問題群のなかでも、とくに権利をめぐる変化が著しい同性愛の問題に焦点をあてたい。

セクシュアリティ規範は宗教や文化と深く結びついている。国家や共同体などの公権力もまたセクシュアリティの管理に強い関心を抱いてきた。セクシュアリティが婚姻や生殖(再生産)の問題とつねに不可分だからである。しかしながら、キリスト教社会やイスラム教社会とは異なり、日本では異性愛主義が法規範として貫徹されたわけではない。ただし、それは性愛や性的指向の権利を認めてきたことを意味しない。今日の日本は近隣のアジア諸国と比べてもジェンダー主流化が著しく立ち後れ、セクシュアリティの多様性を尊重する社会にはほど遠い。このような原因はいったいどこにあるのか。

シンポジウムでは歴史学・法学・文学のそれぞれの視点から同性愛を含む性的指向や非異性愛の意味づけについて論じ、将来への展望を拓くための手がかりを探りたい。



写真 「Ganymede serving wine to Zeus」(メトロポリタン美術館)

### プログラム

13:00 ～ 13:05	<b>開会挨拶・総合司会</b> 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター 野村鮎子
13:05 ～ 13:30	<b>「同性愛の位相－歴史学と法学の コラボから見えてくるもの」</b> 奈良女子大学 三成美保
13:30 ～ 14:00	<b>「性愛を規制するものはなにか －摂関期宮廷社会の性の配置」</b> 津田塾大学 木村朗子
14:00 ～ 14:30	<b>「ウィークネス・フォビアと ホモ・フォビア」</b> 東北芸術工科大学 内田雅克
14:30 ～ 15:00	<b>「国連システムにおける同性愛/ 性的指向と人権保障の展開」</b> 高岡法科大学 谷口洋幸
15:00 ～ 15:10	休憩(質問用紙回収)
15:10 ～ 15:30	<b>コメント1</b> 甲南大学 田野大輔
15:30 ～ 15:50	<b>コメント2</b> 立命館大学 二宮周平
15:50 ～ 17:00	<b>討論 司会</b> 神戸大学 奈良女子大学 長志珠絵 鈴木則子
終了後	茶話会